平成２５年(２０１３年)8月１６日　静岡新聞朝刊

SBS 2013 カップ 国際ユースサッカー

第1日

２０１３SBS杯国際ユースサッカー（日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催、エコパハウス共催）は15日、藤枝総合運動公園サッカー場で開幕した。日本、ロシア、ウルグアイのU―18（18歳以下）代表と静岡ユースがリーグ戦で争う。日本は来季の清水入りが内定している金子（ＪＦＡアカデミー福島）の1得点1アシストの活躍でウルグアイを２―０で下した。静岡ユースは終了間際に梅村（磐田ユース）、土居（浜松開誠館高）が連続得点を奪い、ロシアを３―２で退けた。大会第2日は16日、草薙陸上競技場で「静岡―ウルグアイ」、「日本―ロシア」を行う。

静岡ユース―U―18ロシア代表　試合終了直前、静岡・土居（13）が３点目のシュートを決める＝藤枝総合運動公園サッカー場

静岡3発、ロシアを破る

静岡ユース　３（1―0／2―2）２　U―18ロシア代表

▽得点者【静】中野、梅村（手塚）土居（深実）【ロ】エルマコフ、ダヴィードフ（PK）

【評】持ち味を発揮した静岡が粘るロシアを振り切った。

静岡は序盤からボールを支配し、相手DFの背後を次々と突いた。前半19分、左サイドでボールを受けた中野が中央に切れ込んで先制弾を放った。同点に追いつかれた後半36分には梅村が手塚の右クロスを合わせてリードすると、40分に土居のゴールで突き放した。

後半はロシアに押し込まれる時間もあったが、主将の鈴木を中心に守備陣が踏ん張った。

指揮官の理想、選手表現

指揮官が思い描く理想のスタイルを、静岡ユースの選手が攻守両面で見事に表現した。「やるべきことをやってリズムをつくった。ほぼベストゲーム」と甘日岩監督。2年ぶりの優勝に向け幸先の良いスタートを切った。

攻撃陣が序盤から相手DFの背後を狙った。先制点は積極的な仕掛けで脅威を与えていた中野から生まれた。得意の突破から右足を振り抜き、「あんなきれいなゴール決めたことがない」と自画自賛した。

同点に追い付かれても動じなかった。中盤でボールを小刻みに回し、サイドを崩した。引き分けが頭をよぎった後半36分、手塚の絶妙なクロスを梅村が華麗に合わせ、勝利を呼び寄せた。

指揮官はチーム結成時から一貫して攻守にわたるハードワークを求めている。全員が連動してボールを奪いにいく姿勢が終始見られ、体格で勝るロシアの攻撃陣を封じた。「優勝するために勝ちにこだわっていく」と中野。見据えるのは２０１１年の山口国体に続く栄冠だけだ。

（岡田拓也）

追撃も実らず

○…U―18ロシア代表は後半に粘りを見せた。24分、左クロスからのこぼれ球を拾ったエルマコフが倒れながらも押し込んで１―１と追いついた。その後2点を奪われたが、ロスタイムに相手のハンドを誘ってPKを獲得。これをダヴィードフが落ち着いて決めた。

ウリヤノフ監督は「相手の攻撃は素晴らしかった。ボールをしっかり支配していたが、そのための技術を備えている」と静岡の攻撃をたたえた。

【ロシア】４・５・１

石田	（浜松開誠館高）	GK	バシュティン
手塚	（静岡学園高）		アルフェロフ
鈴木	（清水ユース）		カルボフ
長島	（静岡学園高）		レベンコ
深実	（磐田ユース）		ナビウリン
上原	（磐田ユース）		エルマコフ
須藤	（静岡学園高）		マスチルノイ
柳本	（清水ユース）		コズロフ
金原	（磐田ユース）		ヤシヌチュク
梅村	（磐田ユース）		モルタノフ
中野	（磐田ユース）		ダヴィードフ
12		SH	10
6		CK	4
8		FK	11
4		GK	4

【静　岡】４・５・１

▽PK【静】0【ロ】1

▽交代【静】小谷・藤枝東高（金原）土居・浜松開誠館高（中野）榎本・浜松開誠館高（須藤）宮本・清水ユース（梅村）【ロ】ノソフ（コズロフ）ペロウス（エルマコフ）

きのうの結果

静　岡　３―２　ロシア

日　本　２―０　ウルグアイ

きょうの試合

静　岡　16：00　ウルグアイ

日　本　18：20　ロシア

（会場は草薙陸上競技場）

日本、ウルグアイに快勝

U―18日本代表―U―18ウルグアイ代表　前半26分、1点目を頭で決める日本の金子（15）＝藤枝総合運動公園サッカー場

U―18日本代表（３）　２（2―0／0―0）０　U―18ウルグアイ代表

▽得点者【日】金子（広瀬）関根（金子）

【評】日本が金子の1得点1アシストの活躍で開幕戦を飾った。

前半26分に右クロスを頭で合わせ、29分に関根にラストパスを送って２点目を演出した。

後半は途中出場の宮市を中心に、８本のシュートを放ったが、追加点を奪えなかった。

無得点のウルグアイだが、前半から迫力ある攻撃を仕掛け、22分、CKからプスチアッソのヘディングがバーを叩き、またGKとの１対１になる場面が２度あったが、決めきれなかった。

金子、華麗に先制ゴール

チームで最も低い159㌢の金子が、華麗なヘディングで先制点を決めた。前半26分、右サイドから広瀬が上げたクロスに「相手から消え、スッと入ることを心掛けた。いいボールがきた」と金子は相手と競り合うことなく、頭で合わせた。来季から清水入りする。大会前の11日、清水で湘南との練習試合に出場し、ここでも頭で得点を決めていた。

29分には越智のパスを受け、ドリブルで相手を引きつけて関根にラストパスを送った。「（関根が）フリーだと分かったので確実な方を選択した」と言う金子。ゴール前での冷静なプレーが光った。

14日の国際Aマッチの日本―ウルグアイ戦は全員でテレビ観戦。前半28、後半10分に相手と1対1になるピンチを防いだGK高木和は「A代表が負けたので、僕たちがたたきたかった」と敵討ちの気持ちでチームは一丸になっていた。鈴木監督は「SBS杯は10月の（U―19アジア選手権）1次予選のシミュレーション。内容も結果も求める」と選手に伝えている。残り2試合はさらに充実した戦いをして、連覇にこだわる。

（大山雄一郎）

【ウルグアイ】４・５・１

高木和	（清水ユース）	GK	カロドソ
広瀬	（浦和ユース）		エチェベーリ
内山	（札幌ユース）		プスチアッソ
三浦	（清　水）		アレゴニス
尾身	（横浜Mユース）		スアレス
関根	（浦和ユース）		ピッシチロ
川辺	（広島ユース）		ファーベル
松本	（大　分）		アコスタ
宮原	（名古屋）		メンデス
越智	（広島ユース）		ダルベナス
金子	（JFA福島）		ラトーレ
13		SH	9
4		CK	1
9		FK	12
9		GK	5

【日　本】４・４・２

▽交代【日】北川・名古屋ユース（川辺）宮市・中京大中京高（越智）小川・G大阪ユース（関根）田村・湘南（金子）【ウ】ベニテス（ラトーレ）ピントス（ダルベナス）トレイラ（ピッシチロ）クリストーバル（ファーベル）ゴンザレス（スアレス）

決定機逃し失速

○…長旅の疲れに加え、南半球の祖国と季節が逆転する日本の夏の蒸し暑さの影響があったのか、ウルグアイの運動量がみるみる落ちていった。コイト監督は「徐々にスピードが下がり、リズムを失った」と肩を落とした。

序盤は見せ場をつくった。前半22分にCKからプスチアッソのヘディングシュートがバーをたたくと、1分後にはダルベナスがGKとの1対1の場面をつくった。しかし、決定機を連続で外し、チームは失速した。

メンバーは17歳が中心で10月に開幕するW杯（U―17）に向けた調整も兼ねている。指揮官は「問題点を考え、チームをまとめていきたい」と前を向いた。